

- 1 単元 「わかりやすく説明しよう ～情報を選ぶ～」(光村1年)
(〇〇中学校のよさを今の6年生に伝えよう)

- 2 指導観

新しい学習指導要領が公示され、来年度から移行措置に基づいた指導を実施することになった。改訂された学習指導要領の大きな柱は、学校における全ての教育活動の根幹をなす言語活動の充実である。その言語活動の中核を担う国語科の役割はこれまで以上に重要なものとなる。特に本市においては、昨年度より「書く力と語彙力を高め言語生活に生かす授業改善」を国語科の目指す方向性として掲げている。そこに示されたポイントとして 目的・相手・場・条件・様式等を明確に、比べて読んだり聞いたりする言語活動を、「活動」と「指導」との有機的な関連を図った単元構成を、という3点が挙げられている。(『授業改善プログラム 中学校国語科-授業改善の手引き-』より)つまり、これらのポイントがそのまま中学校の国語科教室の課題であると言える。

本単元は、授業改善のポイントの「目的・相手・場・条件・様式等を明確に」するということを中心として、特に相手や目的を意識して自分の考えを書くことを重点的に指導するために設定した。なかでも、書くための情報をあらゆる角度から集めるとともに、読み手のことを注意深く、より細かく分析していくことを大切にしている。

これらの言語活動は、自分の考えをまとめる過程の中で、書く目的をふまえ、読み手の立場をしっかりと考えた上で、自分の考えに生かすという点で、大変意義深いものである。

本校には言葉遣いが横柄なところがあり、落ち着いて学習に取り組む習慣が身に付いていない生徒が多数見られる。1年生に限らず、生徒をとりまく言語環境は厳しいの一言に尽きる。ただ、授業中については小学校でしっかりと取り組まれており、落ち着いて静かに話を聞くことのできる生徒がかなり増えてきた。しかし、いわゆる学力は概ね低く、1学期を終えた時点においては学習の到達度は決して高いとは言えない。

国語科での事前調査によると、漢字や語句を習得するための反復練習は「かなり好き・好き」が半数以上を占めている。その反面、人の話を聞いて要旨をまとめたり、わかりやすく人に説明したり、文章をまとめたりすることについては、「苦手・かなり苦手」という生徒が半数を超えている。この生徒の中には、最初から何を書いたりまとめたりすればよいか分らず、最初から何もしようとしないうちが多数見られた。このことは小学校における指導事項「目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書く(Bア)」の達成度が低いことにも通じており、現時点での学習意欲は、実態として大変低い。また、半数に満たない「得意・かなり得意」という生徒の全てが「A」と評価できるわけではなく、「まわりに比べたら自分は得意だ」と自己評価しているに過ぎず、学習の到達度は決して高くない。

何かを書いたり伝えたりするときに、相手のことをしっかりと考えるという意識はかなり乏しく、相手を分析して書くことを見つけ取捨選択するという経験はほとんどない。

指導にあたっては、目的や相手・場面を意識して自分の考えを書くことに重点を置いていきたい。自分の考えを書きやすい「〇〇中のよさ」というテーマを設定し、今の6年生を読み手として分析し、集めた情報を取捨選択することをねらいとしている。自分の考えを書く前に、伝えたい相手のことをしっかりと考えると、自分が書くことがよりよく整理されていくことを実感させたい。

そのためにまず、6年生に「〇〇中のよさ」を伝えることそのものの大切さについて、理解させたい。ここでは、今の6年生に伝えたい「〇〇中のよさ」を意見交流させながら、あらゆる角度から情報を集めさせたい。次に、「読み手の4つの視点」をもとに、読み手として設定した今の6年生のことを細かく分析させる。ここでは、昨年6年生だったころのことを想起させることで、いったん読み手の立場に身を置いて、自らが通学している「〇〇中」のことを考えさせる。さらに、「読み手の4つの視点」で全生徒が分析した内容を集約したものを読み、自分以外の考えを知り、意見交流させる。ここでは不明な点を質問したり質問されたことに答えたりして、相互交流し考えを深めさせる。また、他のアイデアを積極的に取り入れ、自分の考えを整理させる。最後に、自分が伝えたい「〇〇中のよさ」をまとめ、文章に書かせる。ここでは、自分の考えを説明したり、他の説明を聞いたりして、説得力のある文章になるようにさせる。

3 目 標

身近な日常生活の中から、書くために必要な情報を見つけさせる。(国語への関心・意欲・態度)
 相手・目的・場面に応じて、伝えたい事実や事柄や課題を挙げ、自分の考えや気持ちを明らかにさせる。
 (B書くこと イ)
 語句がどのように使用されているかを考えている。(言語について知識・理解・技能)

4 指導計画

次 時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準
1	<p>学習のねらいを確認し、6年生に伝えたい「〇〇中のよさ」を探す。</p> <p>1 学習のねらいや流れを確認する。 (〇〇中のいいところを探してアピールしよう) (来年入学してくる現6年生に紹介する文章を書こう)</p> <p>2 現6年生に伝えたい「〇〇中のよさ」を探す。 ・来年入学してくる現6年生にどんなよさを伝えればよいだろうか。 ・入学前に何を知らなかったか。</p>	<p>・「〇〇中のよさ」を探すこと自体の大切さや、6年生に伝える価値を考えさせる。</p> <p>・誰(相手)に、何のために(目的)、どんな方法(場面)で伝えるかを考えさせ、情報メモに書かせる。</p>	<p>・学習内容について、すすんで課題を指摘しようとしている。関；診断シート分析</p> <p>・6年生という相手・よさを伝えるという目的を意識し、伝えたい事実や事柄や課題を挙げている。 書；情報メモ分析</p>
2	<p>「読み手の4つの視点」をもとに、6年生が知りたい「〇〇中のよさ」を想定する。</p> <p>1 「〇〇中のよさ」というテーマで、現6年生が必要とする情報を考え、情報カードに書く。 ・現6年生は〇〇中のことをどれくらい知っているだろうか。 (例)部活動があるということ (例)英語の勉強が始まること ・現6年生にとって、〇〇中のどんなことを知りたいだろうか。 (例)楽しい学校行事のこと (例)勉強がどれくらい難しくなるかということ ・自分は6年生の頃、どんなことを知りたいと思っていただろうか。 (例)部活動のこと (例)体育大会のこと ・どんなことを書けば、6年生は興味をもって読んでくれるだろうか。 (例)助け合って勉強すること (例)先輩・後輩の関係 など</p>	<p>・「読み手の4つの視点」に従って、読み手が必要としている情報を想定させる。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「読み手の4つの視点」 読み手は、誰ですか？ 読み手は、これから書こうとすることについて、どれだけの予備知識がありますか？ 読み手は、何を期待してこれを読みますか？ 読み手が真っ先に知りたいと思うことは何ですか？</p> </div> <p>・自分が6年生の頃に考えていたことを想起し、自分が伝えたいことと、相手が必要としていることとの違いを考えさせる。</p>	<p>・「読み手の4つの視点」をもとに、6年生が必要としている情報を想定している。 書；情報カード分析</p> <p>・自分のことをふりかえりながら、自分の伝えたい「〇〇中のよさ」を情報メモに記入している。 書；情報カード分析</p>
3	<p>「〇〇中のよさ」というテーマで集めた情報を、学級で意見交流して取捨選択する。</p> <p>1 前時に挙げた「〇〇中のよさ」について、自分以外の考えを知り、学級全体で意見交流する。 ・自分の挙げたことからの根拠を示し質問にはきちんと答えること ・他の意見に対して、疑問があればきちんと質問すること ・共感できることがあれば、交流の相手にきちんと伝えること など</p> <p>2 自分が伝えたい「〇〇中のよさ」を、これまでに得た情報から取捨選択し、伝える内容を明確にする。</p>	<p>・前時に書かせたカードの内容を集約したものを読ませたうえで、学級全体で意見交流させる。</p> <p>・これまでの情報をもとに、自分が伝えたい「〇〇中のよさ」を整理させる。</p>	<p>・「〇〇中のよさ」を示す多様な語句について理解を深めている。 言；学習プリント分析</p> <p>・得られた情報をもとに、言葉を整理し、伝えたいことを挙げている。 書；学習プリント分析</p>
4	<p>同じような内容を書いている生徒同士での対話を通して自分の考えを深め、紹介カードに文章を書く。</p> <p>1 自分が伝えたい「〇〇中のよさ」に挙げた情報を、同じような内容を書いている生徒との対話を通して、自分の考えを深める。</p> <p>2 現6年生に伝える「〇〇中のよさ」を文章としてまとめる。</p>	<p>・自分が伝えたい「〇〇中のよさ」を、同じような内容を書いている生徒と対話させ、自分の考えを深めさせる。</p> <p>・紹介カードに、自分が伝えたい「〇〇中のよさ」を書かせる。</p>	<p>・自分の考えを説明したり、他の意見をきちんと聞いたりして、対話の中で意見交流している。関；様相チェック</p> <p>・自分の伝えたいことを下書きカードに書いている。 書；紹介カード分析</p>

(1) 本時の指導観

前時では、「〇〇中のよさ」を探し、集めること自体が大切なことであり、6年生に伝える文章を書くことに価値があることを確認させた。そして、どんなことを伝えたいかを考えさせた。そこで本時では、6年生が知りたがっている「〇〇中」のことをしっかり考えさせ、6年生に伝える文章の材料を集めることをねらいとする。そのためにまず、前時に挙げた「〇〇中のよさ」について学級全員分を集約したものを提示し、自分以外の情報を知らせる。次に、「読み手の4つの視点」を示し、6年生の立場に身を置いて具体的に6年生が知りたがっていることを考えさせる。ここでは、前時の情報メモを参考にし、思いついたことは即座にメモし、数多くの言葉を出すよう指示する。さらに、具体的に想定したことに対する理由・根拠を書かせる。ここでは、しっかりした理由・根拠がないと説得力のある文章にはならないことを理解させる。最後に、読み手を意識することの重要性を再確認させ、読み手を分析すれば書くべき材料が集まることを実感させる。

(2) 主眼

「読み手の4つの視点」をもとに、読み手である現6年生が知りたがっていることを想定し、「〇〇中のよさ」を紹介する文章を書く材料を集めさせる。

(3) 準備 掲示物「〇〇中のよさ」 ワークシート 情報カード(記入用紙)

(4) 指導過程

学習活動・内容	準備	手だて()と評価()	形態	配時
1 前時をふりかえり、本時のめあてを確認する。 ・今の6年生が知りたがっていることを考え、「〇〇中のよさ」を伝える文章の材料を集めよう。		前時の情報メモ「〇〇中のよさ」について全員分を集約したものをもとに、他の情報を共有させて、めあてを確認させる。	全体	10
2 現6年生が知りたがっている「〇〇中」のことを具体的に想定する。 ・現6年生にとって、〇〇中のどんなことを知りたいだろうか。また、現時点でどの程度〇〇中のことを知っているだろうか。 (例)部活動があるということ。 (例)体育大会はとても盛り上がるということ。 ・6年生の頃、どんなことを知りたいと思っていただろうか。 (例)*部活動のこと *英語のこと *学校行事のこと ・どんなことを書けば、6年生は興味をもって読んでくれるだろうか。 (例)心配しなくても大丈夫だということ。 (例)部活動の詳しいことについて。 ・どんなことを書けば、よさをアピールできるだろうか。 (例)一人ではできないことも、集団で取り組みればできるということ。 など		「読み手の4つの視点」を示し、4つの項目それぞれについて、自分のことをふりかえりながらよく考えさせる。 *教えること 相手を意識すること <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「読み手の4つの視点」 読み手は、誰ですか？ 読み手は、これから書こうとすることについて、どれだけの予備知識がありますか？ 読み手は、何を期待してこれを読みますか？ 読み手が真っ先に知りたいと思うことは何ですか？</div>	全体 個	15
3 具体的に想定したことを情報カードに書きその根拠となることをメモする。 (例)部活動を楽しみにしていると思うが、詳しいことはあまり知らないだろう。 理由・根拠 入部して初めて知ることがたくさんあるから。 (例)怖そうな先輩がいるから不安に思っているだろう。 理由・根拠 自分も入学前は、とても怖くて不安だったから。 (例)教科ごとに先生が替わって、しかも勉強が難しくなるから、ついていけないかもしれないと思っている人がいるだろう。 理由・根拠 勉強はたしかに難しくなると実感しているから。 (例)友達や先輩と仲良くやっていけるだろうか。 理由・根拠 進級する度に友達のことは不安だったから。また、先輩は優しくしてくれるかということも心配だったから。 など		「読み手の4つの視点」に従って作成した情報カードに、読み手である現6年生の分析を行わせる。 *教えること 読み手を分析すること 自分のことをふりかえりながら読み手のことを「読み手の4つの視点」をもとに想定し、伝えたい自分の考えを書いていくか。 【Cの生徒への手だて】 昨年の「〇〇中一日体験」直前の自分の気持ちを思い出させ、書かせる。 *学ばせること 読み手をしっかり分析すると、書くべき材料が集まること。	全体 個	15
4 本時を振り返り、学習したことを確認する。 ・「読み手の4つの視点」をもとに、現6年生のことをよく考えたこと。 (〇〇中のことをどのくらい知っているか、〇〇中のどんなことを知りたがっているか など) ・想定したことについて、自分がそう考えた根拠を示し、情報を整理したこと。		掲示物や配布物・記入したプリントをもとに、本時の学習をふりかえらせる。 *学習したことをまとめ、振り返らせる	全体	5
5 次時の予告を聞き、学習の準備をする。				5

